

ART WEEK TOKYO 東京 NOVEMBER 5-9, 2025

www.artweektokyo.com

プレスリリース：2025.07.15

一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム

報道関係者各位

小沢剛、Chim ↑ Pom from Smappa!Group、やなぎみわがカクテルで コラボ、bricolage bread & co.の生江史伸シェフはフードを提供 アートウィーク東京 2025 プログラム概要を発表

東京の現代アートの創造性と多様性を国内外に発信する年に一度の「アートウィーク東京（AWT）」。2025年11月5日（水）から9日（日）までの5日間にわたり開催される本イベントより、AWTが独自に開催する4つのプログラムの概要を発表します。



左から、小沢剛、Chim ↑ Pom from Smappa!Group、やなぎみわとのコラボレーションカクテル

5日間限定のAWT BARで空間がゆがむ体験を

新進シェフによるオリジナルフードやアーティストとのコラボレーションカクテル、サウンドプログラムやパフォーマンスが楽しめるポップアップバー、AWT BARが2025年も南青山にオープンします。

今年のバーの設計は建築家の松沢一応が担当。建築家の選定はAWT BARのアドバイザーである妹島和世が

行いました。岡山の犬島プロジェクトをはじめ、建築を取り巻く多様な環境との関係性を重視した設計で知られる松沢。今年の AWT BAR では、空間全体に「ゆがみ」を生じさせることで、観る人にいつもとは異なる空間認識を促します。



松沢一応による AWT BAR の完成イメージ © ichio matsuzawa office

今年のフードは bricolage bread & co.のプロデューサーであり、ミシュラン三つ星レストランの「レフェルヴェソンス」のエグゼクティブシェフとして知られる生江史伸が手掛けます。国産小麦と自家酵母を使った bricolage bread & co.のパンは、発酵という「生きた時間」を経て、小麦の育った土壌や酵母の気配、作り手の温度、季節の気候など、自然と人の要素を映し出す「風土の記録」。AWT BAR では、甘味（スクレ）と塩味（サレ）2種のフィンガーフードを通じて、食べるという行為の奥行きや感覚の記憶を感じる体験を提案します。

※松沢一応、生江史伸のプロフィールは文末をご参照ください。

※フードの詳細は8月に発表予定です。

アーティストとのコラボカクテル

AWT 会期中に参加施設で作品を見ることが出来るアーティストたちとのコラボレーションカクテルを味わえるのも、AWT BAR ならではの体験。今年はミサシギャラリーで個展を開催する小沢剛、アノマリーで作品を展示する Chim ↑ Pom from Smappa!Group、国立新美術館のグループ展に参加するやなぎみわの3組が、それぞれ展覧会とリンクしたカクテルを考案します。視覚と味覚、感性を刺激するひとときをお楽しみください。



小沢剛

*ミサシギャラリーで個展を開催、国立新美術館のグループ展に参加

「汎大陸（パンゲア）」

現在の六大陸の元になったと言われる「パンゲア大陸」に着想を得て考案された6層のカクテル。

アーティスト コメント

赤いリングを探してごらん

他の色たちも探してごらん

太古 大陸は1つだった

今みたいに 世界は分断などしていなかった

6つの大陸は 雄大な夕暮れの海になった

さあ あなたの中で 1つに溶かしておくれ



Chim ↑ Pom from Smappa!Group

*アノマリーで個展を開催

「ゴールドエクスペリエンス」

宇宙デブリに着想したカクテル。野菜くず由来のスープとグラッパに、彫刻作品の破片と雑草を入れて楽しむホットカクテル。

アーティスト コメント

今、「ゴミ」とされている物の別の側面が見えた時、その意味や歴史が広がり価値観が揺れる。そんな体験の入口になるようなホットカクテルをつくりました。ベースのグラッパは今でこそ高級なものもありますが、元々はワインの搾りカスでつくられる安酒でした。割り物は普段 WALL で提供される料理の野菜くずからとったスープ。保温の焼き石にはゴミ袋をテーマとした私たちの彫刻作品の破片を使っています。実はビアンコカラーラというダビデ像と同じ山から切り出された大理石です。彩りに、日本では雑草とされる一方、海外ではハーブとして知られる季節の植物を添えました。カクテルのイメージの元となったのは宇宙デブリ。人類の進歩の欲望の結果、処理されずに宇宙に漂うデブリは核廃棄物にも似ています。けれどもその一つひとつがスプートニクやアポロ 11 号の破片かもと思うと想像が広がります。



やなぎみわ

*国立新美術館のグループ展に参加

「elevator girls」

ブルーのカクテルに、やなぎみわの代表作《エレベーターガール》を思わせるハイヒール型のゼリーを浮かべた一杯。

アーティスト コメント

水底に沈むエレベーターガールたちの写真作品からイメージした艶やかなカクテル。エメラルドブルーのソーダの中に漂う赤い靴は、毒のある人造美の色に見えて、意外やクランベリーを凝縮した酸味あふれる味わいです。ビジュアルと味わいの差も、ぜひお楽しみください。

※「ゴールドエクスペリエンス」と「elevator girls」はノンアルコールも対応。

※各アーティストのプロフィール、コメントは文末をご参照ください。

「AWT BAR」開催概要

会場：港区南青山5-4-30 emergence aoyama complex

会期：11月5日（水）～9日（日）

営業時間：10:00～22:30（ラストオーダー22:00）

買える展覧会 AWT FOCUS

テーマは「リアルとは？」

美術館での作品鑑賞とギャラリーでの作品購入というふたつの体験を掛け合わせたAWT独自の特別展AWT FOCUS。第3回となる2025年は国際芸術祭「ドクメンタ14」でアーティストティックディレクターを務めたアダム・シムジックが監修を務めます。

今年のプログラムタイトルは「リアルとは？」。ポスト真実（Post-Truth）の幻想が広められ、ソーシャルメディアでは非現実が生成・拡散される現代において、「リアル（現実／写実）」はどのような意味を持つのか？アーティストたちが社会的・政治的課題に応答しながら探求してきた「リアル」の多様な表現を通じて探ります。

※ アダム・シムジックのプロフィールは文末をご参照ください。ステートメントは[こちら](#)から。

「AWT FOCUS」開催概要

会場：港区虎ノ門2-10-3 大倉集古館 1・2階

会期：11月5日（水）～11月9日（日）

開場時間：10:00～18:00（最終入場 17:30）

料金：一般有料、学生・子ども無料

※ 9月頃にオンラインチケットを販売開始予定。

主催：一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム

特別協力：公益財団法人 大倉文化財団 大倉集古館

※ 本展に関しての大倉集古館へのお問い合わせはお控えください。

不確かな日々を生きる手掛かりを 映像作品を通じて探る AWT VIDEO

AWT VIDEO は、パブリックスペースで展開される映像作品プログラム。2025年は東京都現代美術館の学芸員であり、「恵比寿映像祭」の創設も担った岡村恵子が監修を担当します。今年のプログラムタイトルは「儀礼、あるいは祈りの不条理な美」。過去を偲び、今に喘ぎ、未来を憂う、様々な祈りの形を表現した10名のアーティストによる作品を通して、不確かな日々を生きる手掛かりを模索します。

※ 岡村恵子のプロフィールは文末をご参照ください。ステートメントは[こちら](#)から。

「AWT VIDEO」開催概要

会場：千代田区丸の内 1-3-2 三井住友銀行東館 1F アース・ガーデン

会期：11月5日（水）～ 11月9日（日）

開場時間：10:00～18:00

料金：無料

AWT TALKS シンポジウムは 2027年「ドクメンタ 16」の芸術監督が基調講演

会期前から会期中にかけて開催される AWT TALKS では、初心者からコレクターなどのアート通まで幅広い層に向けたシンポジウムやオンライントークなど多岐にわたるプログラムを展開。国内外のキュレーターや思想家を招いた議論を通じて、業界の最前線のトピックや課題、歴史を深く伝えるほか、これからコレクターを目指す人に向けたガイドツアーやセミナー、子どもや若年層が対象のアートエデュケーションプログラムも実施します。

シンポジウム

現代社会におけるアートの位置づけや批評的アプローチについて議論するシンポジウム。2025年の基調講演者は、グッゲンハイム美術館の副館長兼チーフキュレーターで、2027年に開催される「ドクメンタ 16」のアーティスティックディレクターに就任したナオミ・ベックウィスが務めます。

※ ナオミ・ベックウィスのプロフィールは文末をご参照ください。

会場：慶應義塾大学 三田キャンパス 西校舎ホール

日程：11月7日（金）18:00～20:00（17:30 開場）

料金：参加無料、事前申込制

共催：慶應義塾大学アート・センター、慶應義塾ミュージアム・commons

※参加の受付はオンラインにて9月頃を予定。

ディレクターズ・カンバセーション

2025年から新たに始まる「ディレクターズ・カンバセーション」は、世界有数の美術館のリーダーたちが美術館運営から企画・立案、アウトリーチまで様々なトピックについて語るトークセッションです。今年は香港の現代美術館 M+のアーティスティックディレクター兼チーフキュレーターであるドリアン・チョンがモデレーターを務めます。

※ ドリアン・チョンのプロフィールは文末をご参照ください。

会場：東京都現代美術館 講堂

日程：11月6日（木）17:00～18:00（16:30 開場）

料金：参加無料、事前申込制

共催：東京都現代美術館

※参加の受付はオンラインにて9月頃を予定。

オンライントーク

アーティストや美術史家、キュレーター、批評家、クリエイターなど、各分野の第一線で活躍する専門家らによるレクチャーやディスカッションをオンラインで配信しています。

今年配信予定の3本のうち、第一弾として笹本晃と田中功起による対談を公開しました。東京都現代美術館でミッドキャリアを回顧する「笹本晃 ラボラトリー」展を開催する笹本と、北京のユーレンス現代美術センター（UCCA）での今年9月からの個展を控えた田中が、自身の創作について、そしてインスティテューションという文脈に作品を展開することで得られた洞察について議論しています。

① **【公開中】** 笹本晃×田中功起「東京の内と外：笹本晃と田中功起による、拡張する芸術的实践とは」

関係者プロフィール

AWT BAR

設計：松沢一応



松沢一応（まつざわ いちお）

建築家。松沢一応事務所主宰、IIL 共同主宰。2007年から18年までSANAA/妹島和世建築設計事務所に在籍し、ルーヴル・ランス（フランス）、ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館新館（オーストラリア）などのプロジェクトに従事。独立後は犬島プロジェクト（岡山）をはじめ、様々な建築プロジェクト、インテリアプロジェクトの設計を手掛けている。建築を取り巻く多様な環境との関係性を重視した設計を行う。

フード：生江史伸



Photo by Nathalie Cantacuzino

生江史伸 (なまえ しのみ)

bricolage bread & co.プロデューサー、レフェルヴェソンス エグゼクティブシェフ。英国「ザ・ファットダック」副料理長を経て、帰国後にレフェルヴェソンスを開業。ミシュラン三つ星とグリーンスターを連続受賞する。また六本木のベーカリーカフェ、bricolage bread & co.では、国産小麦と自家酵母によるパンづくりを通じて、風土の記録と響き合う食のかたちを提案する。

カクテル：小沢剛、Chim ↑ Pom from Smappa!Group、やなぎみわ



小沢剛 (おざわ つよし)

1965年東京生まれ。ユーモアを交えながら歴史や社会を鋭く批評する絵画、写真、映像、インスタレーションといった多様な手法の作品で知られる。代表作に「地蔵建立」「なすび画廊」「醤油画資料館」「ベジタブル・ウェポン」「帰って来た〜」シリーズなどがある。P.S.1 コンテンポラリーアートセンター、ハイワードギャラリー、森美術館など、国内外の国際展にも多数参加。ベネッセアートサイト直島には《スラグブツダ 88》が恒久展示。アーティスト集団「西京人」としても活動し、金沢 21 世紀美術館やグッゲンハイム美術館などの展示に参加。M+香港、国立国際美術館、東京都現代美術館など、世界各地の美術館に作品が所蔵されている。



Photo by Seiha Yamaguchi

Chim ↑ Pom from Smappa!Group

(チン↑ポム フロム スマッパ!グループ)

2005年に東京で結成されたアーティストコレクティブ。メンバーは卯城竜太、林靖高、エリイ、岡田将孝、稲岡求、水野俊紀。現代社会に介入したプロジェクトを通して世界各地の展覧会に参加、森美術館、ダラス・コンテンポラリーなどで個展を開催。ポンピドゥーセンター、グッゲンハイム美術館など国内外の美術館に作品が収蔵されている。福島第一原発事故に伴う帰還困難区域内での展覧会「Don't Follow the Wind」の発案・参加など様々な自主企画を展開。22年4月、Chim↑Pom から Chim↑Pom from Smappa!Group に改名。



やなぎみわ

兵庫県神戸市生まれ、京都府在住。美術作家、舞台演出家。1993年にエレベーターガールをテーマにした作品で初の個展を開催し、以後国内外で個展多数。第53回ヴェネチア・ビエンナーレ（2009年）の日本代表作家。2011年より演劇活動を開始し、近代美術の黎明期をテーマに美術館や劇場で公演、北米ツアーも果たす。19年、個展「神話機械」が美術館巡回。21年には台湾オペラ「アフロディーテ〜阿婆蘭〜」を作・演出。16年より台湾製の特殊車両による野外巡礼劇を続けており、「踊り念仏」で知られる時宗の祖・一遍上人が亡くなった土地でもある神戸の兵庫津では海上公演を実現。以降、一遍上人の軌跡と芸能を研究するプロジェクト「YUYAKU 踊躍歓喜」が発足している。

AWT FOCUS

監修：アダム・シムジック



Photo © Gina Folly

アダム・シムジック

チューリッヒ美術館の Das Büro für geistige Mitarbeit キュレーター。2014 年から 17 年まで国際芸術祭「ドクメンタ 14」のアーティストティックディレクターを、03 年から 14 年までクンストハレ・バーゼルのディレクター兼チーフキュレーターを務めた。22 年にチューリッヒに現代アートと文化のための非営利団体 Verein by Association を設立。

AWT VIDEO

監修：岡村恵子



Photo by Art Week Tokyo

岡村恵子（おかむら けいこ）

東京都現代美術館事業企画課企画係長。学芸員として東京都現代美術館（1995–2007 年／21 年–現在）、東京都写真美術館（2007–21 年）で数々の企画を手掛ける。2009 年に映像とアートの国際フェスティバル「恵比寿映像祭」の創設を担う。21 年開催の第 13 回まで毎年携わり、映像インスタレーションや映画、パフォーマンス作品を領域横断的に数多く紹介した。

AWT TALKS

シンポジウム基調講演者：ナオミ・ベックウイス



ナオミ・ベックウイス

ソロモン・R・グッゲンハイム美術館副館長兼チーフキュレーター。美術史家として数多くの展覧会カタログや刊行物に寄稿するほか、アイデンティティやブラックカルチャーがグローバルな現代美術に与える影響をテーマに様々な展覧会や出版物を手掛けてきた。企画した主な展覧会に「Rashid Johnson: Poems for Deep Thinkers」グッゲンハイム美術館（2025–26 年）、「Howardena Pindell: What Remains to Be Seen」シカゴ現代美術館（2018 年）、「The Freedom Principle: Experiments in Art and Music, 1965 to Now」シカゴ現代美術館（2015 年）、「30 Seconds off an Inch」ハーレム・スタジオ美術館（2009–10 年、ニューヨーク）など。2027 年の「ドクメンタ 16」ではアーティストティックディレクターを務める。



ドリアン・チョン

M+（香港）のアーティスティックディレクター、チーフキュレーター。デザインと建築、映像、視覚芸術において、コレクションから展覧会、教育普及プログラム、出版物、デジタルイニシアティブまですべてのキュレーション活動とプログラムを監督している。M+で企画・監督した展覧会に「Picasso for Asia: A Conversation」（2025年、フランソワ・ダローとの共同企画）、「Yayoi Kusama: 1945 to Now」（2022年、吉竹美香との共同企画）、「Noguchi for Danh Vo: Counterpoint」（2018年）など。2015年から24年にかけては、香港のヴェネチア・ビエンナーレ参加の企画・監督もサポートした。現職着任以前は、ニューヨーク近代美術館、ミネアポリスのウォーカー・アート・センター、サンフランシスコのアジア美術館に勤務。その間 MoMA での「Tokyo 1955–1970: A New Avant-Garde」（2012年）やウォーカー・アート・センターでの「Tetsumi Kudo: Garden of Metamorphosis」（2008年）、「House of Oracles: A Huang Yong Ping Retrospective」（2005年）などを企画した。

Photo by Dan Leung. Courtesy M+, Hong Kong.

開催概要

アートウィーク東京

名称：アートウィーク東京（欧文：Art Week Tokyo、略称：AWT）

会期：2025年11月5日（水）－11月9日（日） 10:00－18:00

会場：都内の参加美術館・ギャラリー、AWT FOCUS、AWT BAR ほか各プログラム会場

主催：一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム

提携：アートバーゼル（Art Basel）

特別協力：文化庁

アートウィーク東京モバイルプロジェクト

名称：アートウィーク東京モバイルプロジェクト

会期：2025年11月7日（金）－11月9日（日） 10:00－18:00

主催：東京都／アートウィーク東京モバイルプロジェクト実行委員会

料金

- AWT BUS の乗車無料。
- 参加ギャラリーの入場無料。参加美術館では AWT 会期中に限り所定の展覧会にて AWT 特別割引適用。
- AWT FOCUS の入場一般有料（金額未定）、学生・子ども無料。

参加施設(2025年7月15日時点)

美術館・インスティテューション

アーティゾン美術館
エスパス ルイ・ヴィトン東京
銀座メゾンエルメス フォーラム
国立新美術館
資生堂ギャラリー
シャネル・ネクサス・ホール
東京オペラシティ アートギャラリー
東京国立近代美術館
東京都現代美術館
東京都写真美術館
東京都庭園美術館
森美術館
ワタリウム美術館

ギャラリー

ギャラリー38
アノマリー
ウェイティングルーム
XYZ コレクティブ
MEM
カイカイキキギャラリー
カナカワニシギャラリー
カヨコユウキ
ケンナカハシ
コウサクカネチカ
コタロウヌカガ
ギャラリー小柳
小山登美夫ギャラリー
シュウゴアーツ
スカイザバスハウス
スタンディングパイン
スノーコンテンポラリー
スペースアン
タカ・イシイギャラリー
タクロウソメヤコンテンポラリーアート
タケニナガワ

タロウナス

東京画廊+BTAP

ナンヅカアンダーグラウンド

日動コンテンポラリーアート

ハギワラプロジェクト

PGI

ファーガス・マカフリー

ファイギュア

ペース・ギャラリー

ペロタン東京

ポエティック・スケープ

ミサコ&ローゼン

ミサシンギャラリー

ミヅマアートギャラリー

無人島プロダクション

ユタカキクタクエギャラリー

ユミコチバアソシエイツ

リーサヤ

※AWT の一覧表記ルールに基づく施設名称表記の 50音順です。

公式サイト <https://www.artweektokyo.com/>

Instagram <https://www.instagram.com/artweektokyo>

Facebook <https://www.facebook.com/artweektokyo/>

X <https://twitter.com/ArtWeekTokyo>

YouTube <https://www.youtube.com/@artweektokyo6594>

「アートウィーク東京」運営体制概要

アートウィーク東京は、アートバーゼルとの提携および文化庁の協力を受け、一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォームが主催します。また、都内のアートアクティビティの体験を創出する「アートウィーク東京モバイルプロジェクト」を、東京都とアートウィーク東京モバイルプロジェクト実行委員会の主催により実施します。

「アートウィーク東京モバイルプロジェクト」概要

東京都とアートウィーク東京モバイルプロジェクト実行委員会が主催。アートウィーク東京の会期中に都内各地に広がる主要なアートスペースをつなぐ「AWT BUS」を運行するほか、会期前から会期中にかけて子どもや若者、アートコレクターを目指す方などを対象とする様々なプログラムの展開や、国内外のキュレーターを招聘したシンポジウムなどを通じて、幅広い鑑賞者層に対してアートアクティビティの体

験機会を創出。国内のアートに対する関心の裾野拡大を目指します。実行委員は、片岡真実（森美術館館長）、小松弥生（東京国立近代美術館館長）、渡邊努（東京都現代美術館副館長）、塩見有子（NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT]理事長）、蜷川敦子（アートウィーク東京ディレクター／一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム代表理事）。

「アートバーゼル」概要

世界最高の規模と質を誇る近現代美術のアートフェア「アートバーゼル」。毎年、拠点となるスイスのバーゼルをはじめ、香港、マイアミビーチ、パリで開かれるアートフェアには、世界各地から大勢のアーティストや専門家が集まる。（公式サイト：<https://www.artbasel.com/>）

【過去のプレスリリースはこちらからご覧いただけます】

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/100658

報道関係のお問い合わせ

アートウィーク東京 PR 事務局（WAG, Inc.）

担当：会津・林・芳賀／TEL：03-5791-1500／Email：awt_pr@wag-inc.co.jp